

# 2010年度 自然共生研究センター 実験河川での実験スケジュール

※本年度、実験河川では5つのテーマを調査する為の仕掛けがあります。  
実験期間中はそれらの様子をご覧頂く事が出来ます。  
なお、実験条件等により調査実施日は変更致しますのでご了承下さい。

① 護岸ブロックの色によって、  
虫等の生息状況は異なるのか？  
—景観に配慮した護岸の機能の調査—

…護岸ブロックは、周辺の景観になじむように着色することがあります。  
異なる色で着色した3種類の護岸ブロックにおいて、虫等生息状況を調査し、虫等の種類や数が異なるか比較します。

② 護岸の「湿潤度」や「温度変動」の違いが、  
昆虫類の生息状況に影響を与えるのか？  
—護岸の物理環境変化と昆虫類の生息関係に関する調査—

…散水装置や遮光施設を活用して、護岸の物理環境「湿潤度」と「温度変動」を変化させ、昆虫類の生息状況を調査して生物の好む環境条件を調べる実験を行います。

③ 土砂を大量に含む濁水は、  
藻類にどのような影響を及ぼすのか？  
—藻類群集に対する高濃度濁水の影響調査—

…人間の活動により、大量に土砂を含む濁水が、洪水時に川を流れることがあります。  
ここでは、こういった「河川の強い濁り」が藻類や水生昆虫に及ぼす影響について、実験水路を用いて明らかにします。

④ 河床への砂供給が、付着藻類にどの様に影響するのか？  
—河床への土砂供給と付着藻類に関する調査—

…近年、ダム下流の環境改善等を目的として貯水池内の土砂をダム下流に還元する事業が行なわれています。  
実験河川においてはその効果やメカニズムを解明するため細粒土砂の供給実験を行い、土砂の動きや付着藻類への影響を調べます。

⑤ 沈水植物がもつ生態系への緩衝機能とは何か？  
—沈水植物の物理的機能および生理的機能による生態系緩衝機能実験—

…沈水植物には、周囲の環境変化に対する緩衝機能があると言われています。その中には、水質変化の緩和や他生物への生息空間の提供などがあげられます。しかし、その機能について定量的に計測されておりません。  
ここでは、沈水植物があることの機能（物理的機能）と生長や光合成などを通しての機能（生理的機能）について実験を行います。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実験河川 A	上流												
	中流												
	下流												
実験河川 B・C	上流												
	中流												
	下流												
実験池													
実験水路													

② 護岸の物理環境変化と昆虫類の生息関係に関する調査

① 景観に配慮した護岸の機能の調査

④ 河床への土砂供給調査

⑤ 沈水植物の生態系緩衝機能実験

③ 藻類群集に対する高濃度濁水の影響調査